



株主のみなさまへ／長期構想 SIC27 1
業績ハイライト 3
事業別活動報告 4
グループトピックス 8
CSR 9
コミュニケーション広場 10
連結財務諸表の要旨 11
会社情報 12
株式情報 13

株主のみなさまへ

生活文化創造企業 東洋インキグループ

“For a Vibrant World”

100年レンジでの持続的成長が
可能な企業体質に変革し、
すべての生活者・生命・地球環境が
いきいきと共生する世界の実現に
貢献する企業グループを目指します



株主のみなさまにおかれましては、平素から格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

東洋インキグループにとって2019年度は、長期構想 Scientific Innovation Chain 2027(SIC27)と中期経営計画 SIC-Iの2年目となります。SICとは、Scientific: 科学的に実行すること、Innovation: 革新的に発想すること、Chain: それぞれの活動を連鎖させることで、「社員一人ひとりが革新的に発想し、科学的に実行する。そして、それぞれの活動を連鎖させる」ということです。つまり、科学的実行・革新的発想という個人ベースでの活動を、世界中の仲間との活動の連鎖、時間軸での連鎖によって、組織ベースでの会社の発

展につなげていこうというものです。

このようなSIC27の2年目、挑戦を繰り返す中計 SIC-Iの折り返しとなる今年は、一人ひとりが意識を変え、イノベティブな挑戦を繰り返すことが求められています。

当第2四半期連結累計期間(1~6月)における世界経済の状況は、米国や中国などでの成長は継続しているものの、通商摩擦や政治的リスクの高まりに伴い、急激に減速感が強まってきました。また我が国でも、緩やかな回復基調が続いていると言われるものの、景況感は悪化してきています。

このような環境のなか、東洋インキグループは「市

■ 長期構想

SIC27

Scientific Innovation Chain 2027

革新的な発想を科学的に実行し、それぞれの活動の連鎖によって、持続的に成長できる企業体質へと変革してまいります。

SIC-I
挑戦を
繰り返す
2018-2020

SIC-II
新しい成果を
積み重ねる
2021-2023

SIC-III
持続可能な
企業体質を
創り上げる
2024-2026

中期経営計画「SIC-I」基本方針

さらなる100年レンジでの持続的成長の礎を創り上げる期間と位置づけ、変革のための施策を立て続けに打つ

場や顧客ニーズの変化を捉えた新たな事業展開と価値提供」、「モノづくり企業として、国内外拠点のサプライチェーン、製品構成、製法・処方を根本から見直し、技術優位で市場を主導」、「変化を厭わず、挑戦を促す風土・人事制度の刷新と業務改革」を方針として掲げ、各事業を推進してまいりました。

しかし、米中の通商摩擦の長期化に伴い、スマートフォンを始めとする高機能製品の消費市場が低調に推移しましたうえ、原材料価格の高止まりも続きましたため、当第2四半期連結累計期間の売上高は減収になり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は減益になりました。

以上のような大変厳しい状況ではありますが、2019年度の目標達成に向けてグループ一体となって危機感を共有し、持続的成長を見据えた長期構想SIC27の方向性を再認識するとともに、具体的な行動の変革に引続き全力で取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2019年8月

代表取締役社長 北川克己

業績ハイライト

※記載金額は億円未満を四捨五入しています。

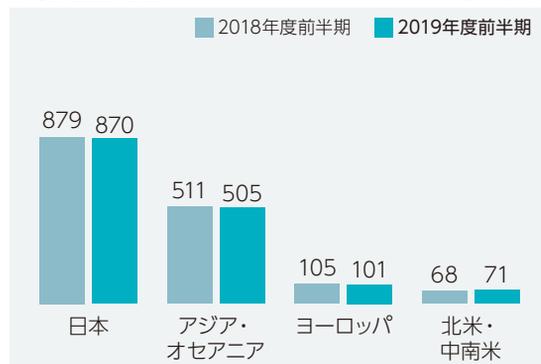
売上高推移

単位：億円



所在地別売上高

単位：億円



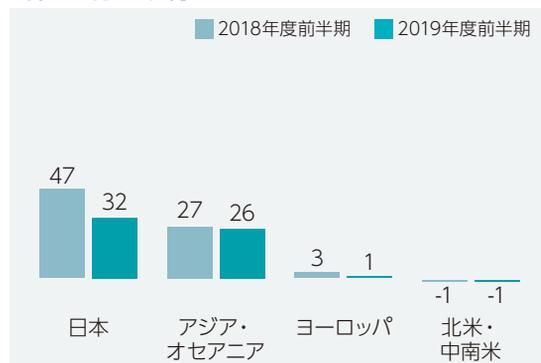
営業利益推移

単位：億円



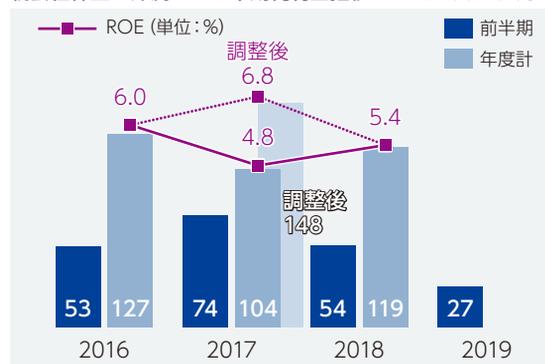
所在地別営業利益

単位：億円



親会社株主に帰属する四半期純利益推移・ROE

単位：億円



当社は2017年度より、それまで毎年4月1日から翌年3月31日としていた決算期を、毎年1月1日から12月31日までに変更しています。

その為、2017年度は決算期変更の影響により、対象期間が国内は4～12月の9か月間、海外は1～12月の12か月間となっています。

※2017年度の「調整後」は、国内・海外ともに1～12月に調整した実績値です。

色材・機能材関連事業

色材のリーディングカンパニーである当社グループにとって、有機顔料の合成技術は原点の一つ。ナノレベルの分散技術は、液晶ディスプレイ用材料やレジストインキ、カーボンナノチューブなどにも展開されています。

中核事業会社：トヨーカラー株式会社

◇主な製品 有機顔料、加工顔料、プラスチック用着色剤、カラーフィルター用材料など

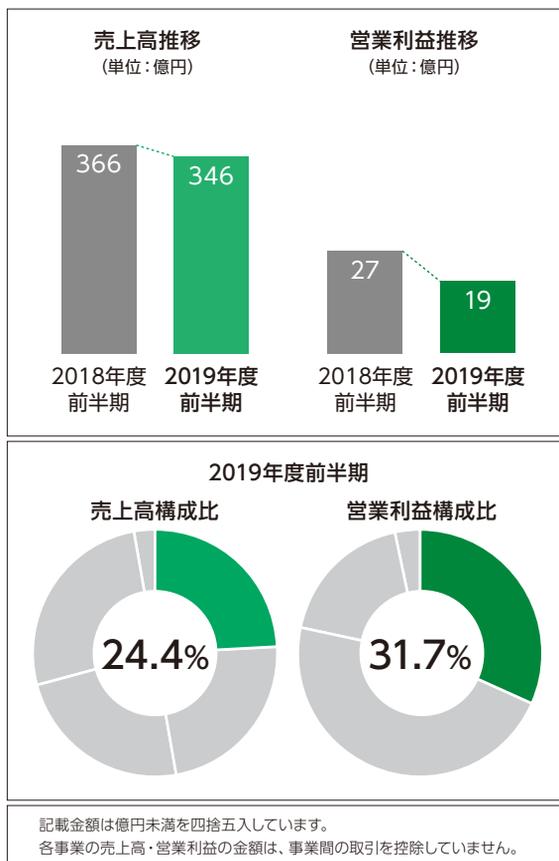


■ 当第2四半期までの概況

高機能顔料や液晶ディスプレイカラーフィルター用材料は、スマートフォンやテレビ需要の低調により、特に高品位品を扱う国内の顧客での稼働が悪化し、売上が伸び悩むとともに、中国や台湾での部材へのコストダウン要請が一層厳しくなり、利益も圧迫されました。

汎用顔料は、印刷インキ用の低調が続きました。うえ、自動車塗料用も伸び悩みましたなか、環境規制に伴う供給不足などによる原材料価格の高騰が続き、販売価格への一部転嫁を進めましたものの、利益の減少を補うまでには至りませんでした。

プラスチック用着色剤は、容器用の伸長が続きましたが、自動車や建材、太陽電池向けなどの高機能製品は低調に推移しました。



ポリマー・塗加工関連事業

樹脂（ポリマー）を素に、合成や塗加工の技術を生かし、自動車やエレクトロニクスの分野、太陽電池などのエネルギー分野、メディカル・ヘルスケア分野などで多くの機能性製品が採用されています。

中核事業会社：トーヨーケム株式会社

◇主な製品 缶用塗料、樹脂、接着剤、粘着剤、塗工材料、天然材料、メディカル製品など



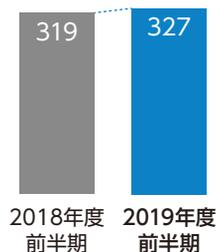
■ 当第2四半期までの概況

塗工材料は、高速通信対応の電磁波シールドフィルムなどの開発や拡販が進みましたものの、中国や韓国でのスマートフォン市場の低調により、全般的には売上、営業利益とも伸び悩みました。

接着剤は、国内では包装用が堅調に推移しました。リチウムイオン電池用が自動車向けを中心に伸ばしました。また海外では、中国や東南アジア、トルコなどでの拡販が進みました。粘着剤は、ラベル用の需要が回復しました。液晶ディスプレイの偏光板向けの拡販も進みました。

缶用塗料（フィニッシュ）は、北米での環境対応製品の拡販が進みましたものの、国内ではコーヒー缶用の低調が続きました。

売上高推移
(単位：億円)

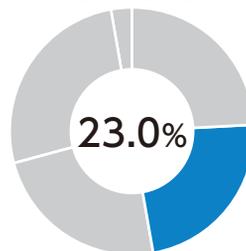


営業利益推移
(単位：億円)

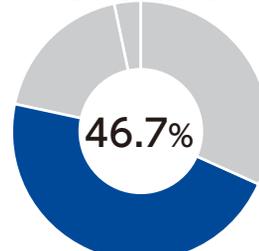


2019年度前半期

売上高構成比



営業利益構成比



記載金額は億円未満を四捨五入しています。
各事業の売上高・営業利益の金額は、事業間の取引を控除していません。

パッケージ関連事業

パッケージの製造工程に多様な高機能製品を提供。安心・安全が求められる食品包装の分野では、インキや接着剤の水性化、無溶剤化などを進め、また、サステナブルな社会をめざし、バイオマス製品の開発も行っています。

中核事業会社：東洋インキ株式会社

◇主な製品 グラビアインキ、フレキシオンキ、
グラビアシリンダー製版など



■ 当第2四半期までの概況

国内のグラビアインキは、出版用の需要減少が続きましたうえ、建装材用も前年並みに終わりましたが、食品や飲料などの包装用がプライベートブランドやコンビニエンスストア向けを中心に堅調に推移、中でもバイオマスインキが大きく伸長しました。海外は、中国では伸び悩みましたものの、東南アジアやインドなどでの環境対応製品の拡販が進みました。

また国内外とも、前期からの原材料価格の急騰を受け、コストダウンを徹底するとともに、販売価格への一部転嫁も進めさせていただきました。

グラビアのシリンダー製版事業は、包装用が伸び悩みましたものの、エレクトロニクス関連の精密製版の拡販が進みました。

売上高推移
(単位：億円)

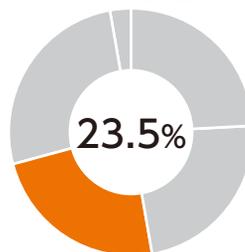


営業利益推移
(単位：億円)

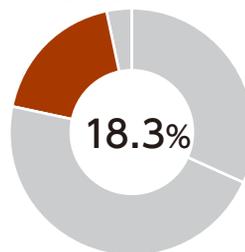


2019年度前半期

売上高構成比



営業利益構成比



記載金額は億円未満を四捨五入しています。
各事業の売上高・営業利益の金額は、事業間の取引を控除していません。

印刷・情報関連事業

当社グループの原点であり、重要な基盤事業の一つ。顔料や樹脂から最終製品までを一貫生産できる強みを生かし、環境調和型や高性能など多様な製品を開発。印刷工程での標準化サポートなどのソリューションも提供しています。

中核事業会社：東洋インキ株式会社

◇主な製品 オフセットインキ、金属インキ、印刷機械、印刷機器、プリプレスシステム、印刷材料、インクジェット材料など

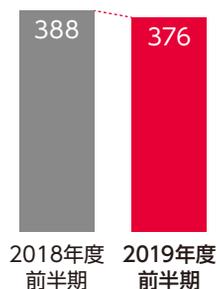


■ 当第2四半期までの概況

デジタル化に伴う情報系印刷市場の縮小傾向のなか、国内では製品別にビジネス規模の最適化やコストダウンを強力に進める一方、海外ではグローバルな拠点拡充による売上拡大を図り、インドや南米などでの拡販が進みました。さらには、モロッコに販売会社を設立し、成長するアフリカ市場での拡販も図っていきます。また、最先端技術を活用した高感度UVインキや、オンデマンド印刷向けインクジェット用インキなどの開発や拡販も進みました。

しかし、国内におけるチラシなどの商業印刷や新聞、雑誌などの既存のオフセットインキの需要は、印刷用紙不足もあり、予想以上に減少しました。また、環境規制に伴う供給不足などによる原材料価格の高騰が続き、利益も圧迫されましたなか、販売価格の改定を進めさせていただいております。

売上高推移
(単位：億円)

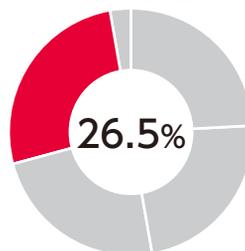


営業利益推移
(単位：億円)

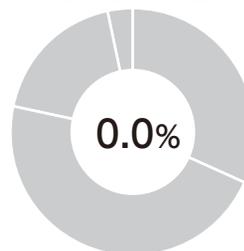


2019年度前半期

売上高構成比



営業利益構成比



記載金額は億円未満を四捨五入しています。
各事業の売上高・営業利益の金額は、事業間の取引を控除していません。

アフリカ・モロッコに販売会社を設立

モロッコ王国
Kingdom of Morocco
カサブランカ
Casablanca

アフリカ大陸

当社は、世界経済において中国やインドに続く今後の成長エンジンの一つであるアフリカ大陸の経済成長を見据え、中長期的な視点からアフリカ大陸のモロッコ王国カサブランカに販売会社を設立いたしました。

アフリカ大陸での成長の土台づくり

これまでは近隣のグループ拠点が個別にアフリカへ事業を展開していましたが、徐々に実績が拡大化しており、東洋インキグループのブランド構築が急がれること、また、点ではなく面でのソリューション提案ができるようにすることを目的として、このたびモロッコに販売会社を設立するに至りました。

新会社は、商業印刷用インキ、および食品パッケージ用のリキッドインキや接着剤、製缶塗料など幅広い製品での市場開拓から事業を開始しております。これら既存製品の販売に留まらず、アフリカ大陸におけるマーケットインでの製品開発を促進するため、マーケティング機能も備えております。さらに、インキ製品の拡販や開発のみならず、

ケミカル製品も展開し、東洋インキグループがアフリカ大陸の生活文化に長期的に貢献するための土台づくりの役割を担ってまいります。



新会社の概要

会社名
TOYO INK NORTH AFRICA S.A.R.L. AU
(東洋インキノースアフリカ)

本店所在地
モロッコ王国 カサブランカ

会社設立
2019年5月

資本金
240万ユーロ

出資比率
東洋インキSCホールディングス株式会社
100% (間接出資含む)

事業内容
商業印刷用オフセットインキ、
パッケージ用リキッドインキおよび接着剤、
UV硬化型インキ、新聞インキ、製缶塗料、
その他ケミカル製品の販売

ICT 社会に向けた イメージセンサー用材料の開発、提供

東洋インキグループは
イメージセンサー向けの
カラーフィルタ用
レジストインキ
を開発、提供しています。



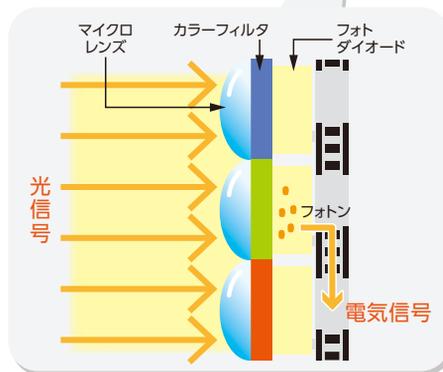
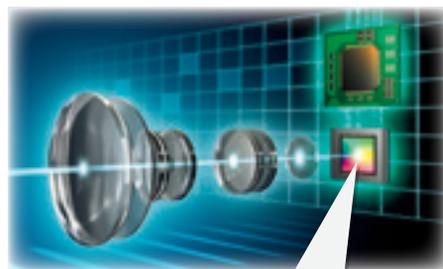
東洋インキグループ
オリジナルキャラクター
リオちゃん

東洋インキグループが提供する価値

イメージセンサーは、マイクロレンズとカラーフィルタ、フォトダイオードの3層で形成されています。スマートフォンなどに使われているカラーフィルタの場合、1画素当たりのサイズは約 $1\mu\text{m} \times 1\mu\text{m}$ と小さく、カラーフィルタ用のオンチップカラーレジストインキは、顔料粒子が極めて微細かつ均一に分散していることが求められています。また、監視カメラや内視鏡などイメージセンサーの用途の拡大に伴って、可視光以外にも赤外線や紫外線など、さまざまな波長の光をセンシング（計測・判別）する必要があります。

このような社会的ニーズに対して、当社連結子会社である東洋ビジュアルソリューションズ（株）では、独自技術を生かし、ナノレベルの分散を実現いたしました。また、高い顔料濃度でも安定して分散させるために新たな分散剤を設計し、フィルタの膜厚を薄くすることに成功いたしました。独自の合成・分散技術により、可視光以外のさまざまな波長の光をセンシングする色材を提供し、イメージセンサーの多機能化にも貢献しています。

イメージセンサーは、ICT社会のビッグデータ収集に不可欠です。自動車1台に多数搭載され、衝突検知や自動ブレーキシステムにも使用されています。自動運転の実現により、イメージセンサーが社会の基礎インフラになると考えられ、カメラの小型化、高性能化により、カラーフィルタも、より小型で高解像度のものが求められています。



Q 株主優待制度を導入してほしい。

当社では、株主のみなさまと双方向コミュニケーションを目指し、年に1回アンケートを実施しています。ここでは、特に多くの方からいただいたご質問・ご要望にお答えいたします。

A 2019年度より株主優待制度を導入いたします。

当社は、株主のみなさまの日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方々に中長期的に当社株式を保有していただくことを目的とし、2019年度より株主優待制度を導入いたします。



ご期待
ください

当社の株主優待制度では、毎年6月30日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式2単元（200株）以上を保有する株主さまを対象に、年1回、当社オリジナルカタログからお好みの商品（1,000円相当）を1点お選びいただき、贈呈いたします。当社オリジナルカタログは、毎年9月下旬頃に発送させていただく予定です。

なお、導入初年度は2019年6月30日現在で2単元（200株）以上を保有する株主さま全員が対象となりますが、2年目（基準日：2020年6月30日）以降は1年以上継続保有*することを条件とさせていただきます。

※「1年以上継続保有」とは、前年6月30日→前年12月31日→当年6月30日と連続して3回以上同一株主番号にて株主名簿に2単元（200株）以上の保有が記載または記録されていることといたします。

連結財務諸表の要旨

※「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2018年12月期については当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

※記載金額は億円未満を四捨五入しています。

連結貸借対照表の要旨

(単位：億円)

科目	2018年12月31日現在	2019年6月30日現在
流動資産	2,038	1,957
固定資産	1,688	1,677
資産合計	3,726	3,634
流動負債	991	1,053
固定負債	497	385
負債合計	1,488	1,438
資本金	317	317
資本剰余金	325	325
利益剰余金	1,461	1,462
自己株式	△50	△50
その他の包括利益累計額	114	76
新株予約権	2	3
非支配株主持分	68	63
純資産合計	2,238	2,196
負債純資産合計	3,726	3,634

連結損益計算書の要旨

(単位：億円)

科目	2018年度前半期	2019年度前半期
売上高	1,410	1,394
売上原価	1,098	1,091
販売費・一般管理費	234	242
営業利益	78	60
営業外収益	12	9
営業外費用	14	7
経常利益	75	63
特別利益	9	4
特別損失	2	28
税金等調整前四半期純利益	81	39
法人税・住民税及び事業税	30	25
法人税等調整額	△5	△14
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	54	27

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：億円)

科目	2018年度前半期	2019年度前半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	116	102
投資活動によるキャッシュ・フロー	△46	△48
財務活動によるキャッシュ・フロー	△22	△47
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11	△5
現金及び現金同等物の増減額	37	2
現金及び現金同等物の期首残高	493	510
現金及び現金同等物の四半期末残高	530	511

◎有利子負債の状況



◎1株当たり配当金



●中間配当金：1株につき45円

●中間配当の効力発生日(支払開始日)：2019年9月2日

※1株当たり配当金は、2018年7月1日をもって実施しました株式会社併合の併合割合を勘案して、記載しております。

会社概要

創業	1896 (明治29) 年1月
設立	1907 (明治40) 年1月15日
資本金	31,733,496,860円
発行済株式総数	60,621,744株
社員数	(連結) 8,264名 (単独) 409名

役員 (取締役・監査役)

取締役会長	佐久間國雄
代表取締役社長	北川 克己
専務取締役	青山 裕也
専務取締役	高島 悟
常務取締役	濱田 弘之
常務取締役	中野 和人
取締役	足立 直樹
取締役	甘利 公人
取締役	木村 恵子
取締役	酒井 邦造
取締役	平川 利昭
取締役	井出 和彦
取締役	山岡新太郎
取締役	千羽 和男
常勤監査役	石川 隆
常勤監査役	垣谷 英孝
常勤監査役	野邊 俊彦
監査役	池上 重輔
監査役	小野寺千世

グループ主要営業品目

有機顔料、加工顔料、プラスチック用着色剤、カラーフィルター用材料、缶用塗料、樹脂、接着剤、粘着剤、塗工材料、天然材料、メディカル製品、グラビアインキ、フレキシソインキ、グラビアシリンダー製版、オフセットインキ、金属インキ、印刷機械、印刷機器、プリプレスシステム、印刷材料、インクジェット材料

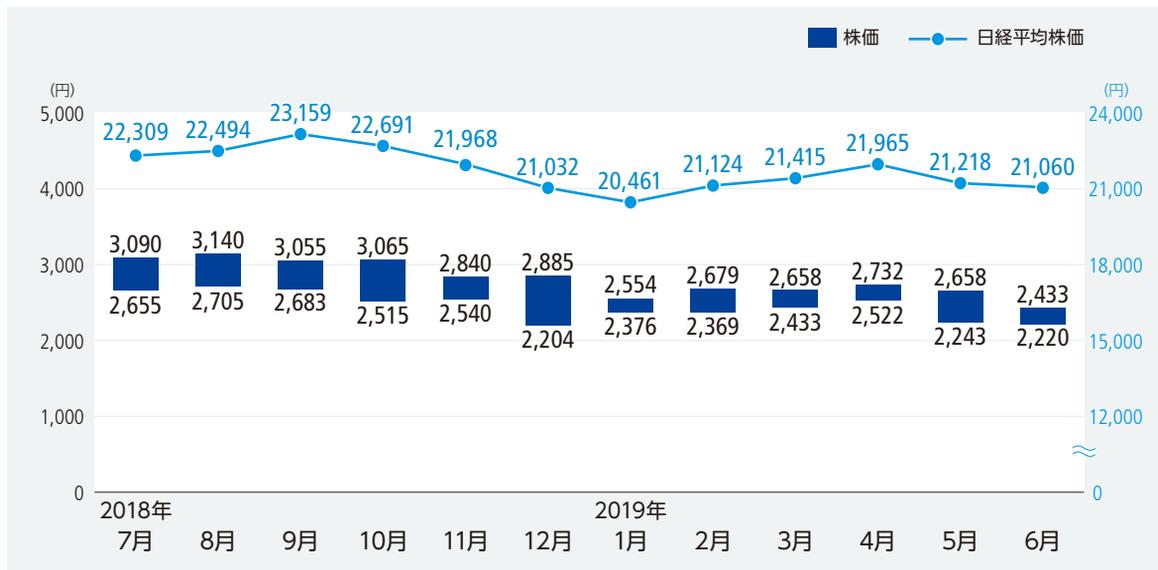
事業拠点

※太字 製造拠点含む

国内拠点所在地	札幌 千歳 仙台 東京(京橋、十条) 千葉 茂原 川口 埼玉 川越 東松山 富山 金沢 長野 新潟 名古屋 静岡 富士 春日井 守山 大阪 寝屋川 京都 西神 尼崎 岡山 広島 高松 福岡 北九州 熊本
海外拠点所在地	アメリカ合衆国 カナダ ブラジル メキシコ フランス ベルギー イギリス ドイツ リトアニア トルコ 中華人民共和国 台湾 大韓民国 シンガポール タイ マレーシア ミャンマー フィリピン インドネシア ベトナム インド アラブ首長国連邦 モロッコ

株式情報

◎株価の推移 (東京証券取引所)



◎売買高の推移 (東京証券取引所)



◆大株主

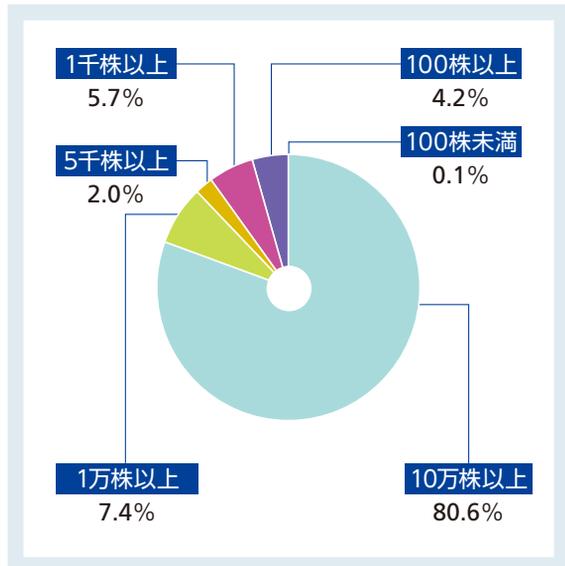
2019年6月30日現在

順位	会社名	持株数(千株)	持株比率
1	凸版印刷株式会社	13,646	22.51%
2	サカティンクス株式会社	2,335	3.85%
3	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,000	3.30%
4	株式会社日本触媒	1,661	2.74%
5	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,556	2.57%
6	全国共済農業協同組合連合会	1,541	2.54%
7	東洋インキグループ社員持株会	1,345	2.22%
8	株式会社三菱UFJ銀行	1,073	1.77%
9	株式会社みずほ銀行	1,073	1.77%
10	SMBC日興証券株式会社	1,044	1.72%

※自己株式2,229,460株を除く。

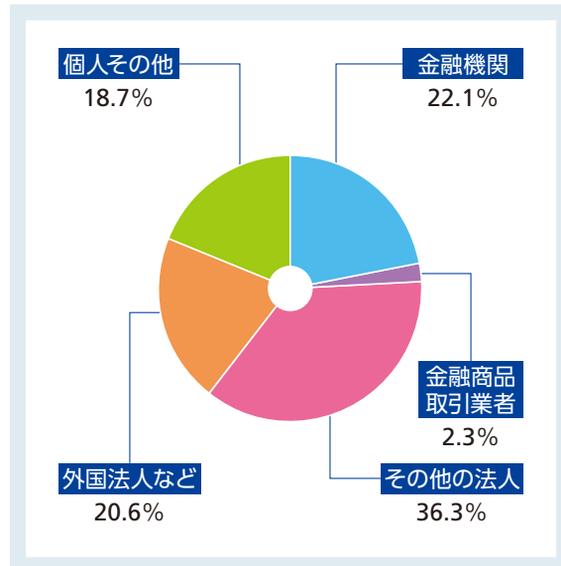
◆所有数別株式数比率

2019年6月30日現在



◆所有者別株式数比率

2019年6月30日現在



株式のご案内

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月下旬

基準日 ●定時株主総会・期末配当：毎年12月31日
●中間配当：毎年6月30日

株主名簿管理人

および

特別口座の

口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

◎住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出について

株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

◎未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

東洋インキ SC ホールディングス 株式会社

〒104-8377 東京都中央区京橋二丁目2番1号

この冊子に関するお問い合わせ先 グループ総務部 TEL.03 (3272) 5731

インターネットによるお問い合わせ先 <https://schr.toyoinkgroup.com>

E-mail info@toyoinkgroup.com



この報告書は、米ぬか油や再生植物油を使用したライスインキで印刷しています。